



JAMCAニュース

No.64

2010年1月1日

発行 全国自動車大学校・整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

学校でのキャリア教育・職業教育のあり方

学校法人小山学園・学園長 山本 眞
 全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

昨年年初から始まった中央教育審議会の「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方」の審議は、7月に中間答申を発表した。この審議経過の中には職業教育について重要な指摘がされており、政権交代によってこの制度の実現がどういふ結果になるうとも、我々の教育活動の参考になる点が多々ある。これらを深く理解して専門学校教育の一層の発展を期したい。

中教審中間答申の概要を紹介

以下、中間答申を抜粋して記載する(文章短縮のため、筆者が意識した部分もある)。

改正教育基本法は、職業を重視することを教育目標の一つとして新たに規定した。学校から社会・職業への移行が円滑に行われることは、国が持続的発展を遂げる上で重要な課題である。学校教育において学生の社会・職業への円滑な移行を図り、自立する社会人・職業人のキャリア形成を支援する必要がある。

キャリア教育とは「それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な知識、技能、態度を育む教育」と定義できる。それぞれにふさわしいキャリア形成とは、社会的・職業的自立と同じ意味である。これに対し、職業教育とは「一定のまたは特定の職業に従事するために必要な知識、技能、態度を育む教育」と位置付ける。

即ちキャリア教育は、個々の学習が社会とどんな関わりを持ち、学生の将来の社会的・職業的自立にどうつながっていくか、学ぶことと働くことを関連付けながら、学びの楽しさを実感さ



せ学習意欲を喚起させる教育である。

職業教育は単なる専門的な知識・技能の教授に終始せず、社会的・職業的自立を促すキャリア教育の視点に立って行われるべきである。変化の激しい経済・社会情勢の中で、職業人として必要な能力を主体的に身に付けていく自己学習力やキャリアデザイン力が不可欠となる。

産業界は新規卒者を就職の段階で「即戦力」としては期待していない。学校教育段階で重要なのは、職業人の心構え、コミュニケーション能力、自己学習力など職業生活に適応し、成長していける力である。

大学制度の教員構成やカリキュラム構成とは別に、必要な基準設定、教育の質の保証により、職業実践的な教育の枠組みを「学校」制度化することは可能である。職業実践的な教育に特化した枠組みのイメージは、実験や実習を4～5割程度とし、関連分野企業等へ一定期間にわたるインターンシップを義務付け、カリキュラムの組成過程において関連分野企業等との連携を制度的に確保する。

教員構成は、実務卓越性(実務知識・経験の有無、職業資格等)を有する

教員を一定割合求めるなど、実務経験等を重視する。対象者(入学条件)は高等学校等卒業者とする。生涯学習ニーズにも対応する。

求められる能力・知識・価値観

この枠組みで育成する人材として、ハードウェア・ソフトウェアの設計・開発、デジタルコンテンツの開発、電子制御・ハイブリッドエンジン等の技術進歩に対応した自動車整備分野、バイオテクノロジー分野におけるソフトウェアを用いた生命情報の処理、既に職業に就いている者に対して更なる知識・技能の高度化・専門化への対応が必要分野の中堅人材が想定される。

学校から社会・職業への円滑な移行に必要な能力等を整理すると、①能力(態度・行動様式)としてコミュニケーション能力、粘り強さ、課題発見・課題解決能力、変化への対応力、協調性、健全な批判力、段取りよく取り組む力などがある。②知識として労働者としての権利・義務などがある。③価値観として勤労観、職業観、倫理観などがある。

以上の報告で、専門学校教育の向上のイメージがつかめただろうか。

CONTENTS

2面	日本のITSの現状と未来
3面	我が校自慢
4・5面	学生の中途退学に潜む危機 —転落リスクにどう対応—
6面	トピックス・アイドルタイム
7面	活躍卒業生・地区通信
8面	私の教材活用・編集後記